（第3種郵便物認可）　北日本新

工事の危険 AI予測

重機と人の接近分析

北興産業 ソフト開発

開発したロギングアナリシスとICライダーZ＝北興産業

電子機器開発製造の北興産業（富山市今泉西部町、中健一社長）は重機を使う工事現場などでの危険をAI（人工知能）で予測する「ロギングアナリシス」を開発し、4月に市場投入する。重機と作業員との接近を警告するシステムと組み合わせるソフトウエアで、潜在的な危険を事前に予測することで事故防止につなげる。

（浜松聖樹）

北興産業は2015年、ICタグを用いて重機と作業員が接近した場合に音やランプで警告する「ICライダーZ」を開発。建設現場や工場、物流拠点向けのシステムとして発売し、これまでに大手ゼネコンなどに約千台販売している。

ロギングアナリシスはICライダーZに付加価値を付けるため、1年かけて開発。接近した回数や距離、時間帯といったデータをAIで分析し、危険度の指数が高い作業員を順位付けする。

予測を基に現場で情報共有を図ることで危険を回避し、作業の態勢や過程の改善につなげることができる。同社によると、重機の検知データを基に危険度を予測するソフトは世界初という。

参考価格はロギングアナリシスとICライダーZを合わせて50万円から。販売目標は年間2千台。

データはSDカードを使ってアプリの入ったパソコンに移動させるが、将来的にはクラウドでデータを取得する予定。